

暁木会会員 各位

平成 25 年 3 月 吉日

暁 木 会

<http://www.gyoubokukai.jp/>

平素は、暁木会の活動にご支援とご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

今回の暁木会ニュース第 24 号では母校の近況報告、就職状況や研究報告、今年から暁木会に入会される学生の方々のメッセージなど、読み応えのある内容となっております。ぜひご通読頂けますようお願いいたします。

なお、本編は白黒ですが、カラー版をホームページに掲載する予定ですのでご覧下さい。

母校の近況報告

教授 道奥 康治

暁木会会員の皆様には日頃より市民工学教室への御支援とご鞭撻を賜り、心より御礼申し上げます。おかげさまで暁木会と当教室との関係は年々緊密化し、その成果が教育・研究の充実へと確実に還元されています。

皆様からのご厚情が詰められた学術振興基金助成金は、大学予算の縮減が続く財政にあえぐ教室の命綱となっております。同助成金は、教育機器の維持・補修、学生・教員の研修のための旅費・雑費、教室行事補助など定例業務の諸経費に充当するとともに、教育設備更新などへの引当金として計画管理して参りました。特に、測量機器の老朽化は甚だしく、これまで対処療法的修理を限界まで繰り返していたことから、機器更新はかねてから喫緊の課題でありました。長年、当局への予算要求と不調を重ねてきましたが、補正予算のドミノ効果か否か、幸にも年度末予算調整の枠内で要求の一部が初めて認められ、これを弾みに暁木会からお預かりしていた助成金を残りの機器購入に充てて、5 台のトータル・ステーションと 4 台のオート・レベルの購入が叶う運びとなりました。30 年ぶりの機器更新という快挙は、ひとえに暁木会からの助成の賜であり、深甚の感謝を申し上げる次第でございます。今回の設備購入をきっかけとして、今後は、助成金を一般会計と特別会計に整理し、短期・中期的執行計画の下で効果的に運用することと致しました。

暁木会と教室との意見交換会は回を重ねる度に充実してきています。各支部総会においても皆様のご厚誼を賜り、お招き頂いた教員に頂戴する多くのご示唆は教室運営の糧となっております。一方で、卒業生・修了生の情報提供や会員増強のための教室の取り組みは必ずしも十分ではなく、心苦しい結果となっております。個人情報問題や社会気運・学生気質の経年変化などにより、教室もとまどい苦慮していることは否めませんが、現在の状況を看過することはできません。教育の原点に戻れば、同窓会や人のつながりの意義を学生に教え諭すことは、情操教育の一環としてむしろ推し進めるべきことです。今後は暁木会のご指導を頂きながら、より踏み込んだ教育・指導へと転換して参りたいと存じます。

さて、2007 年の市民工学専攻・学科への再編からすでに 7 年が経過しました。土木工学科以降の教室変遷に関する説明を本文の宿題として頂戴しましたので、簡単に報告致します。まず、1992 年の土木工学科から建設学科への改組は、1991 年の大学設置基準改正に基づく教養課程廃止や大学科編成など、専門教育における分野境界を取り払って柔軟な教育プログラム編成を目指す「大綱化」を改革の基本原則としていました。これは学術分野の縦割りを緩和して教育プログラムの自由な編成を目指すものでしたが、ご高承のように理想に描くような土木・建築の融合は叶わず、2007 年の市民工学専攻・学科の再編に至ります。

しかしながら、市民工学専攻・学科の発足に際し、巨大災害の頻発、地球環境問題の顕在化、社会の構造的変化、進化を続ける技術体系、などの諸背景を勘案すれば、土木工学への単純回帰があり得ないことは自明でした。そこで、従来の基礎・応用分野を中核としながら、[ヒト・社会] が関わる技術諸問題を包含する学術体系を目指すことになりました。大綱化は様々な課題を残したものの、分野を小分けせず実勢に応じて教育研究分野を順応的・柔軟に編成できるという利点も有します。周知のように「安全と共生」は持続可能社会を実現するための普遍的・包括的な戦略概念であるため、私たちは大綱化の利点を残したまま人間安全工学・環境共生工学の二大講座という緩やかな枠組みの組織化を選択しました。総括すれば、1992 年は外発的で、2007 年は内発的な改組であったと言えます。

さて現在、平成 24 年の「大学改革実行プラン」などにに基づき、大規模な大学改革が進んでいます。各大学の使命を再評価して全国の大学を再整理する（「ミッション再定義」と称する）という大ナタが振るわれ、神戸大学各部局の存在意義が検証された後、市民工学を含めて各部局の改廃が決まる予定です。しかしながら、当教室は暁木会の皆様のご尽力・ご活躍という盤石の礎の上にあるので、「大学リストラ」を経ても、しっかりと生き残り興隆に向かうと信じております。他方、一つの明るい話題として、先端膜工学研究拠点施設（総床面積約 6,000m²）の概算要求が本年 1 月に認められ、学生研究室のスペースに苦しんでいた当教室も 180m² の空間を獲得できる見込みであることをご報告申し上げます。

暁木会の皆様のご協力を頂いたその他の事業として、工学サミット（5/25、9/21、3/4）、神戸 JCT 跨道橋撤去工事（10/25 未明）、ホームカミングデー（10/27）、工学フォーラム（11/27）、建設技術展近畿（10/31-11/1）、学生現場研修会（1/18）などが実施されました。

本年度の教職員異動として、鈴木千賀助教（6/1）、小林健一郎准教授（10/1）、四辻裕文助教（11/1）の着任、小林秀恵・市成準一両技術職員の 3 月末退職をご報告します。現在の教員構成は下表の通りです。最後に、暁木会の今後の益々のご発展をお祈り致しまして、まことに簡単ではありますが、教室の現況ご報告とお礼のご挨拶に代えさせていただきます。

表-1 市民工学専攻・市民工学科の教育研究体制（平成 25 年 2 月現在）

講座	教育研究分野	教授	准教授	助教
人間安全工学	構造安全工学	川谷充郎	三木朋広	
	地盤安全工学	澁谷啓		
	交通システム工学	喜多秀行	井料隆雅	桑野将司 四辻裕文**
	地盤防災工学		吉田信之*	
	地震減災工学	芥川真一	楢田泰子	
	流域防災工学	藤田一郎	小林健一郎	
環境共生工学	環境流体工学		内山雄介	齊藤雅彦
	水圏環境工学	道奥康治	宮本仁志	
	地圏環境工学	大石哲*	加藤正司	
	広域環境工学	飯塚敦*	河井克之*	
	都市保全工学	森川英典		
	都市経営工学	小池淳司	織田澤利守	
（安全と共生の都市学）				鈴木千賀**

*都市安全研究センター所属教員

**自然科学系先端融合研究環所属教員

就職状況の報告

平成 24 年度卒業・修了生就職支援担当教授 川谷 充郎

就職活動が年々激しくなるなか、暁木会会員の皆様には、学生への情報提供やリクレーターとしてのきめ細かなご支援など多大なるご協力を賜り、心よりお礼を申し上げます。

内定状況を下表にまとめます。今回より総括表を加えることになり、スペースに余裕が無く、説明が簡単になることをご了承下さい。今年度も公務員を含め、鉄道、道路、エネルギーなどいわゆる発注サイド

を志望する学生が多い傾向に変わらず、そこに新たに空港が加わりました。総合建設業は 8 名と一昨年並みに戻り、コンサルタントは 1 名と近年で最少です。

来年度の担当は芥川真一教授です。引き続きよろしく願いいたします

平成 25 年 3 月修士修了・学部卒業予定者の進路数

卒業者数	117 人	進学者数	51 人	神大	48 人
				他校	3 人
		就職者数	64 人		
		未定者 帰国	1 人 1 人		
留年者数	6 人				

平成 25 年 3 月修士修了・学部卒業予定者の就職内定先・進学予定先一覧

業種	就職内定先・進学予定先
国家公務員・独立法人	防衛省陸上自衛隊 (1)、明石工業高等専門学校職員 (1)
地方公務員等	東京都 (2)、大阪府 (*1)、兵庫県 (1)、大阪市 (1)、神戸市 (4・*1)、守口市 (*1)、大阪広域水道事業団 (1)
鉄道	鉄道総合技術研究所 (1)、JR 西日本 (3)、JR 東海 (2)、東京急行電鉄 (1)、南海電鉄 (1)
高速道路	阪神高速道路 (1)、本州四国連絡高速道路 (1)
空港	関西国際空港 (1)、中部国際空港 (1)
総合建設業	鹿島建設 (1)、清水建設 (1)、大林組 (1)、大成建設 (1)、鴻池組 (2)、前田建設工業 (1)、名工建設 (*1)
コンサルタント	パシフィックコンサルタンツ (1)
鉄鋼、鉄構・プラント	三井金属鉱業 (1)、神戸製鋼所 (2)、千代田化工建設 (1)、島津製作所 (1)
エネルギー	関西電力 (*1)、北陸電力 (1)、四国電力 (1)、電源開発 (1)
IT、シンクタンク	野村総合研究所 (1)、オービス総研 (1)、SCSK (1)、伊藤忠テクノソリューションズ (1)、パナソニック・システムソリューションズ・ジャパン (1)
住宅、不動産	大和ハウス工業 (*1)、大和ライフネクスト (*1)、野村不動産 (1)
その他メーカー、商社、流通他	三菱電機 (*1)、丸紅 (1)、NTT データ (*2)、KDDI (1)、ジュピターテレコム (1)、博報堂 (1)、三井住友トラストグループ (*1)、KCCS マネジメントコンサルティング (*1)、ミヤモト (1)、サンゲツ (*1)、アップ (1)
進学	神大院博士後期 (2)、東工大院後期博士 (1)、神大院 (*46)、京大院 (*2)
その他	留年 (1・*5)、未定 (*1)、帰国 (*1)

(2013 年 1 月 31 日現在)

()内は人数。*印は学部卒業生。

研究報告(自動車交通の安全に想いを寄せて)

特命助教 四辻裕文

2012 年 11 月 1 日付で自然科学系先端融合研究環重点研究部・特命助教として着任し、同年 12 月 1 日付で市民工学科・助教の兼任を拝命しました四辻（よつつじ）です。この紙面の前半を拝借して私の職歴を紹介しますと、前職は山梨大学大学院医学工学総合研究部社会システム工学系・研究員でしたが、その少し前までは土木建設系コンサルタント会社の社員でした。そこに約 12 年間勤務しましたが、そのうち 2 年間は旧建設省土木研究所道路部道路研究室・部外研究員として、3 年間は国交省近畿地方整備局滋賀国道事務所調査第一課・現場技術員としてお世話になりました。専門は、道路設計・交通計画でした。その後、研究して実用化をしたい題材を見つけたため、辞職して大学院生に戻った次第です。このような職歴は異色に映るかもしれませんが、技術職を辞して研究職を今更目指す理由は、見つけた題材を実用化するには大学という研究機関が適していると判断したからです。

前置きが長くなりましたが、その題材というのは「視覚刺激間隔とその配列の操作による運転者の行動誘導、および路面表示の高度化への応用」です。今、“揺れる部屋”に置かれた人は、周囲の壁全体が前に流動すると、その視覚刺激の流動によって自分は後ろに倒れると知覚してそれを補償するように前のめりになることが知られています。これは、知覚心理学で「行為の視覚性運動制御」と呼ばれる現象です。一方、交通工学・交通心理学では、横線間隔が漸狭（漸広）するように配列された路面表示上を通過する運転者は、刺激間隔の変化を知覚して自然減速（自然加速）することが知られています。さきほどの知覚現象を路面表示がもつこの効果の説明に応用すれば、効果の発現メカニズムが記述できると考えられます。しかし、次の 2 点がよく分かっていません。ひとつは、どれ位の刺激間隔ならば、あるいはどのように配列すれば、ある目標速度に至るまで誘導できるかです。もうひとつは、車群の先頭の運転者に対する効果が後続の二台目以降に波及することを勘案して車群速度を適正に誘導できるかです。これらが分かると、例えば図 1 に示すように、適正な目標速度に至るまで車群速度を誘導可能な路面表示の設計・計画が可能となります。図 2 に示す数値計算例では、表示なし（図左端）では先頭車が衝突事故を起こすが、表示あり（図真中）では車速を誘導して事故を回避できます。

しかし、表示の周波数が高すぎると（図右端）、後続車の追突を招くので設計過剰となっています。この研究は現在、屋外実証実験に向けて、それに適した現場を模索中です。

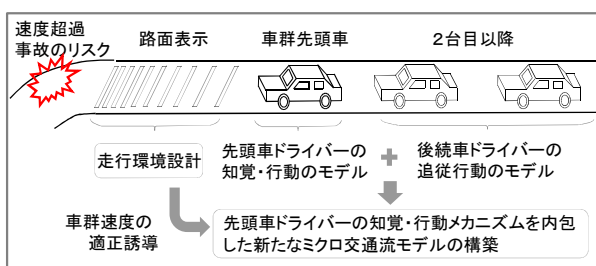


図 1 路面表示による車群速度の誘導

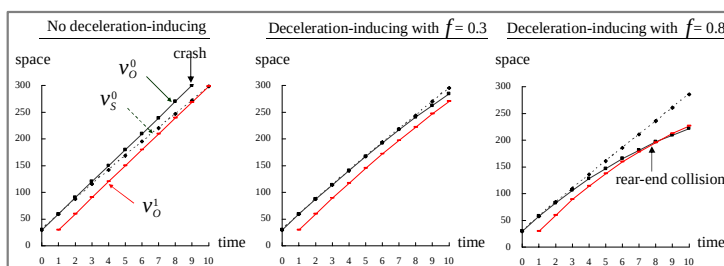


図 2 数値計算例

暁木地盤の会の報告

1月11日（金）に、暁木地盤の会を神戸大学にて開催しました。講演会には、長谷川憲孝氏（神戸市みなと総局）をお招きして、「神戸空港建設における工学的諸問題」という題材で講演して頂きました。神戸空港島を建設した際に生じた問題と、それらの問題を解決するために用いた工学技術を分かり易く解説して頂き、参加者一同有意義な時間を過ごすことができました。

■ 講演会の様子(1)



■ 講演会の様子(2)



■ 講演の様子(3)

質疑応答では熱心な議論が交わされていました。



■ 交流会の様子(1)

おいしい料理を頂きながら懇親を深めました。



■ 交流会の様子(3)

澁谷啓教授から市民工学科の現状報告をして頂きました。



■ 交流会の様子(3)

暁木地盤の会の益々の発展を祈念して三本締めで散会となりました。



新入会員の大学生活思い出メッセージ

宮崎 大

私は、この4年間の大学生活で様々なことを知り、体験しました。地元を離れての一人暮らし、アルバイト、大学での講義、友人との旅行など、思い出深いことはほかにもたくさんありますが、一つ一つの出来事を通して人として成長した、非常に充実した日々であったと思います。

大学生活の中で特に4回生としての1年間は、より充実していました。3回生までの様々な分野についてバランスよく学んでいく講義とは違い、一つの事柄について深く理解をし、解析や考察をする研究活動はとても大変であると感じました。しかし、研究室や、自分用の机、パソコンが与えられたこと、その環境下でのゼミなどの活動は、これぞ理系大学生の生活だと感じ嬉しく思いました。また、career up という活動に参加して、業界研究や、討論の練習、先輩方の就職活動のお話を聞いたことは、想像しづらかった就職活動や仕事についての情報を得たり、そのことに関して自身でより明確に考える良い機会になりました。

少し大学生活とはずれてしまいましたが、私にとって、人が生活するのにどのくらいの費用が必要であるとか、お金を稼ぐ苦労を知るとは、これまでの生活がどれほど恵まれていたかを痛感するとともに、親への感謝の気持ちでいっぱいになりました。また自分で稼いだお金を使い、自分のしたいことを行う、様々な場所への旅行であったり、友人との食事であったり、好きなアーティストのライブに行くなど、様々なことに触れ合い、雰囲気を感じ、人と話をすることは、非常によい成長の糧となりました。

私は、4月から大学院に進学します。大学院では、研究活動により励むのはもちろんのこと、その成果を様々な場所で披露していきたいと考えています。また、業界研究や自己分析など通じて、自己を見つめ直し、就きたい仕事についてよく考え、目標を定めてこれまでよりも、より充実した日々にしていけるよう精進していきたいと考えています。

最後に、この4年の間にお世話になった方々に心より感謝いたします。

西門 優

大学での4年間はすぐに過ぎ去ったと感じております。私は大学に入学して、学業の他にサークル活動に打ち込みました。サークル活動は中学・高校時代と硬式テニスをやっていたということもあって、硬式テニスサークルに入りました。

サークル活動では、先輩方が練習のメニューを考えたり、楽しませてもらう時期はあっという間に過ぎ去り、自分達が幹部となってサークルを作る時になりました。その時期は、練習を効率よく、そして活気あるものにするためにはどのようにすればよいのかということや、サークル活動において後輩達を楽しませるためにはどのようなことをすれば良いのかなどということ、ミーティングを繰り返して行うことによって、それらの問題を解決していききました。またテニスを上達するためにサークルの練習以外にも友達とテニスの練習を行いました。アルバイトもテニスコーチをしているので、3回生が終わるまではテニスばかりの生活であったと思います。

4回生となってテニスサークルを引退し、研究室に配属されることになりました。今の

研究室に入りたいと決めた理由は、3 回生の後期の創造思考ゼミナールⅡという授業で、その研究室での研究を少ししたことや、その研究室に行くことが多かったので、研究室の雰囲気をよく知ることができたからです。研究室はメリハリを大事にしている研究室であり、遊ぶときはみんなで遊び、勉強するときは集中して勉強する雰囲気がしっかりとできているので、気持ちの切り替えがしやすく、研究にも取り組みやすいと感じております。

私はこれから大学院に進学するので、2 年間しっかりと研究を行い、有意義な 2 年を過ごしていきたいと思います。

大畑 拓也

残すところ大学生活も一ヶ月となりました。入学時には長いと感じていた四年があつという間に過ぎてしまいました。新しい環境に戸惑い、次の授業の教室を探して歩き回った一回生の頃を懐かしく思います。学期末の試験前は下宿している友人宅で共に勉強したのもいい思い出です。二回生ではアルバイトを掛け持ちして充実した日々を過ごしたこともありました。友達との交流やアルバイトを通じて多くの貴重な経験が出来たと思います。

特に最後の一年間は非常に思い出深いものになりました。四回生となり、研究室配属では希望する研究室に配属が叶い、非常に喜んだことを覚えています。これまでの座学と異なり、一つのテーマに絞って試行錯誤、考察する研究はとても新鮮でした。研究室の先輩方には、勝手に分からず少し戸惑っていた自分にさまざまなアドバイスをくださり、研究発表では多くのご指摘をいただき、本当に多くを学ばせていただきました。また研究室内では他愛ない話や研究室旅行、多くのイベントで生活がより活気付いたものとなりました。来年、新たに配属される後輩に先輩たちがしてくださったことを、少しでも実践できるよう努力したいと思います。

この四年間は本当に意義のある生活を送れたと感じます。研究室の先輩方や親しい同級生や、バイト仲間との交流はかけがえのない思い出です。楽しかった大学生活もとうとう終わりがやってきました。

進路は修士課程への進学になりますが、着実に社会人へ近づきつつあります。学生である時間はあと二年であり、未熟な点の多い自分はさらに精進が必要だと感じます。これまでの四年間、そして残り二年を経たとき、大学生活を後悔しないように一日一日を大事にしていきたいと思います。

平成 25 年度の暁木一水会の活動予定

平成 24 年度の暁木一水会は、8 月に飯塚教授の「低レベル放射能汚染地域の防除事業—建設業界への期待とリスク—」のご講演、11 月に与布土ダム堤体建設工事見学会、2 月には森川教授から「P C 道路橋における鋼材腐食劣化とその補修対策」のご講演を頂くなど年 4 回開催しました。多くの参加者の中で、各種取組を実施することができました。

平成 25 年度は前年に引き続き、以下の行事を予定しています。5、8、11、2 月の第 1 水曜日（祝日その他の場合は別途開催）に行事を行っています。各回の案内及び申込み方法は、開催日の約 1 ヶ月前に暁木会ホームページの行事予定欄でお知らせ致します。暁木会会員の皆様の奮ってのご参加をお待ちしています。

回数	開催日	演 題	講 師
121	H25.5.8	平成 25 年度兵庫県・神戸市・大阪府の主要施策	兵庫県、神戸市、大阪府職員
122	H25.8.7	未定	一般の講師等
123	H25.11.6	見学会	
124	H26.2	未定	母校の先生

場 所：楠公会館（湊川神社内） 会 費：4,000 円

各支部の取り組みについて

暁木会では全国に 4 つの支部があり、各支部で各種取組を行っています。是非、異動などの際には、お近くの支部にお声掛けください。総会等の行事予定のご連絡を差し上げます。最近の活動概要をホームページに掲載しています。

支部名	会員数	支部長	事務局（問い合わせ先）	総会予定月
東京	770	時政 宏㊟	野村 貢㊟(株)建設技術研究所TEL03-3668-4310) E-mail : nomura@ctie.co.jp	6 月
東海	49	細見孝治㊟	川野幸一 C02 (名古屋鉄道(株)TEL052-825-3116) E-mail : kouichi.kawano@nrr.meitetsu.co.jp	9 月
岡山	53	西垣 誠㊟	西本 靖㊟ (岡山県TEL086-226-7482) E-mail : yasushi_nishimoto@pref.okayama.lg.jp	11 月
広島	101	岡崎修嗣㊟	高橋俊之 C98 (復建調査設計(株)TEL082-506-1853) E-mail : t-takahashi@fukken.co.jp	7 月

同窓会報告

【第3・第5講座同窓会開催】

去る11月30日（金）19：00より、大阪梅田にて、毎年恒例の第3・第5講座同窓会を開催いたしました。

最初に道奥先生よりご挨拶賜りました。選挙前ということもあり、第3極の在り方についてのお話や、大学再編の波に吞まれようとする中での神戸大学の置かれている状況や取るべきスタンスについてのお話を頂き、外部にいてはなかなか縁のない話題で興味深く聴かせていただきました。

近況報告では、33回前後でご卒業の元気のいい方々から、昔話を交えておもしろおかしくお話いただき、この写真の若者が年月が経つとこうなるのか、海外へ赴任するとかいう風に現地に染まるのか、等々これもまた非常に勉強になるひとときでした。

また、多くの在校生が参加しており、学生たちは自分の進む分野や興味のある分野の情報を得る一方、おじさん達は若いエキスを頂くというギブ&テイクの関係成り立っていました。

来年はより多くの方々にお会いできるのを楽しみにしています。ではまた。

（文責：岩木 英郎 01）



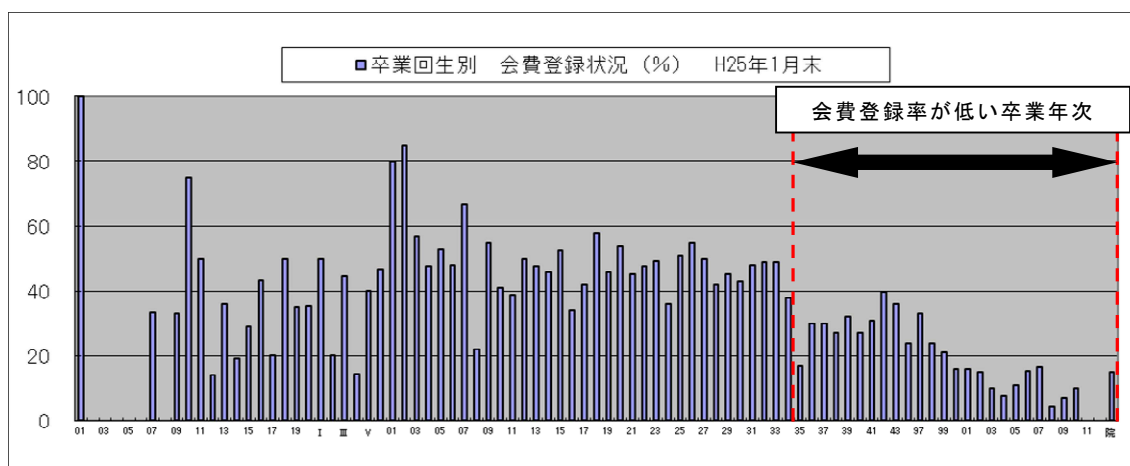


暁木会年会費納入のお願い

平成 15 年度から導入いたしました年会費につきましては、現在、1,100 余名を数える会員各位にご理解とご協力をいただいています。本誌をもってお礼を申し上げます。

尚、会費納入の手続きが未了の会員各位には、手続き関連書類を送付いたしますので、下記の連絡先にご連絡くださいませ。よろしくお願い致します。

※年会費の集金方法につきまして、現在、集金代行業者（三菱UFJニコス株式会社に委託し、会員の指定金融機関から年 1 回の自動引落しの制度を採用いたしております。



暁木会平成 24 年度総会のご案内

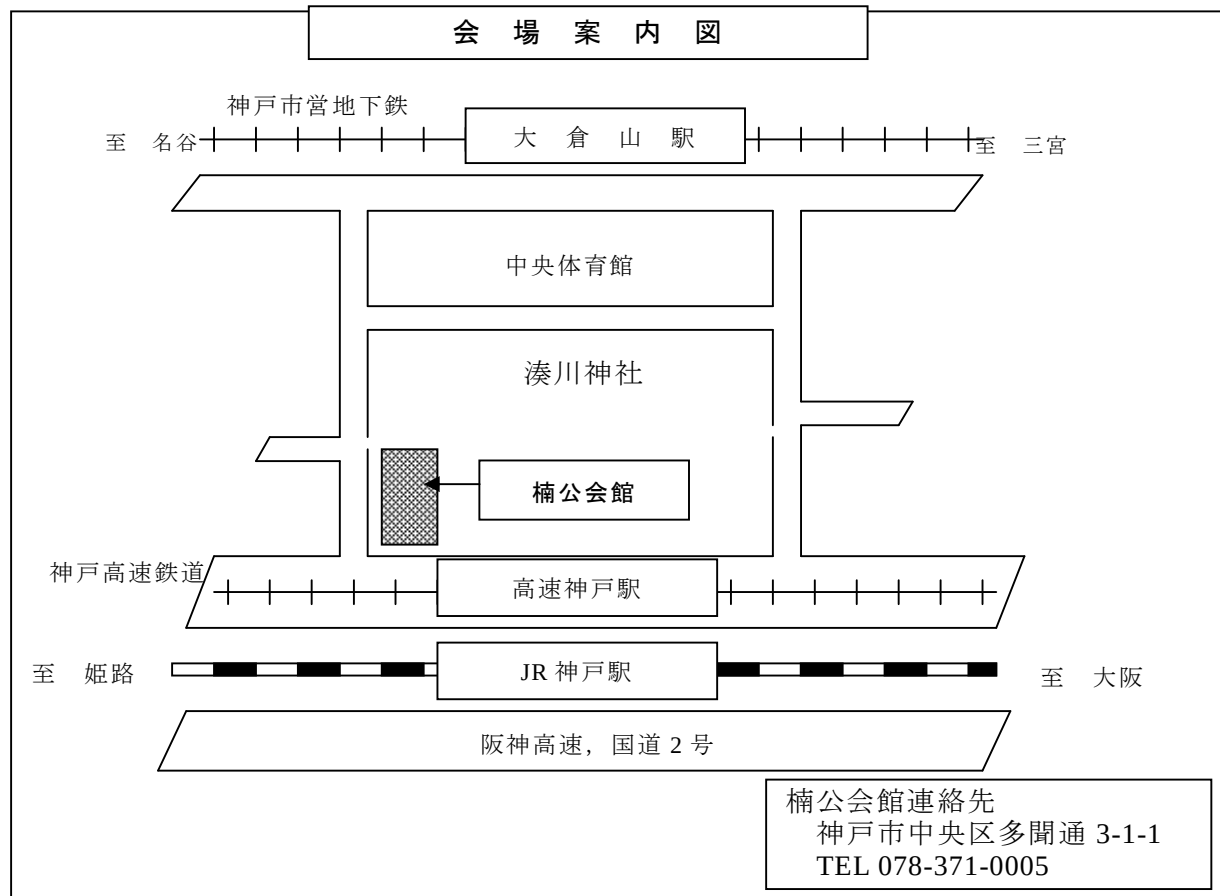
平成 24 年度総会を下記のとおり開催いたしますので、ご多忙の折とは存じますが、何卒ご出席のほどよろしくお願いいたします。

■日 時 平成 25 年 3 月 26 日（火） 午後 6 時～午後 7 時 20 分

■場 所 湊川神社 楠公会館

（最寄駅は、JR 神戸駅、高速神戸駅または地下鉄大倉山駅）

■その他 総会終了後、同会館内で懇親会を開催しますので、あわせてご出席いただきますようお願いいたします。なお、会費（5,000 円）は当日徴収いたします。



暁木会名簿に関するお詫びと訂正のお願い

平成 24 年度版の暁木会名簿に関しまして下記の不備がありました。
先生及び会員の皆様には心からお詫び申し上げます。
最新の情報が必要な方は、K T C 事務局(Tel 078-871-6954)にて個別回答致しますので、
お手数ですがお問い合わせをお願い致します。

- 1 田中泰雄名誉教授、中山昭彦名誉教授のお名前が、現教職員の欄に記載漏れとなっていました。
- 2 (独) 都市再生機構に勤務されている一部会員の皆様の、勤務先及び自宅連絡先が旧情報のままとなっていました。

おわりに

最後になりましたが、業務多忙の折、執筆を引き受けてくださった皆様に心からお礼申し上げます。また、会員の皆様から、本ニュースへの新企画、寄稿などを募集しています。特に、同窓会をされた際には、ぜひニュースにその様子を連絡下さいませ。その他、ご意見等がございましたら、下記連絡先までよろしくお願い致します。

発 行 者：暁 木 会

連 絡 先：常任幹事 矢野 芳広 ㊟

株式会社 間 組 大阪支店

TEL：06-6348-1142 FAX：06-6348-1090

E-mail：yanoy@hazama.co.jp